



ヴォルターズ

「子どもたちに夢を」 「熊本に感動を」 「人と人の繋がりを」

プロバスケットボールチーム、
「熊本ヴォルターズ」の活動理念が、
震災を通じて現実になりつつある。

熊本地震、チーム存続の危機、
どん底からのB2最多観客動員。
目指すのはB1昇格。



熊本

熊本地震でチーム存続の危機——。
不安を抱えたまま迎えた開幕戦では、
「熊本ヴォルターズ」のチームカラーで会場が
埋め尽くされていた。



WIN!

KUMAMOTO VOLTERS



熊本地震で
ホームタウンが被災――

2度の大地震で 町が壊滅的状况に

1年前の2016年4月14日、熊本県上益城郡益城町を拠点に活動しているプロバスケットボールチーム「熊本ヴォルターズ」は、リーグ終盤戦を戦うため遠征先の神奈川県に滞在していた。

その夜、益城町を震源とする地震が熊本を襲った。

チームとしては、すぐにでも地元に戻りたかったが、プロであるが故に試合をキャンセルする事はできない。

翌15日は家族や友人の安否を気にしつつ、試合に臨む。そして16日未明に、ヴォルターズのホームタウンは、更に大きな揺れに襲われた。

この「熊本地震」を抜きに、今のヴォルターズを語る事はできない。

「熊本ヴォルターズ」は、4年前の2013年に、元中学校教諭というプロチームの球団代表としては異色の経歴を持つ湯之上聡氏が立ち上げ、同氏が代表取締役を務める、熊本バスケットボール株式会社が運営している。多くのチームが実業団や企業のクラブチームを母体とする中、

独立系のチームとして発足した、いわゆる市民チームだ。そんなチームを支えているのは、熊本の大小様々な企業と、ファンと呼ばれる個人である。

話を昨年の4月16日に戻す。チームは同日に予定していた試合をキャンセルし、水や食料といった多くの支援物資と共に帰熊する。そこで選手たちが目にしたものは、変わり果てたホームタウンの姿だった。設立時からチームを応援してくれていた、益城町の人々が、住む家を無くし不安を抱えながら避難をしている姿だった。同時に、選手自身も球団関係者も

被災者となった。

チームは避難所となっていたホームアリーナ「益城町総合体育館」へと戻り、その光景に言葉を失う。チームの聖地は、被災者であふれていた。大きな声援を受けながら、戦いを繰り広げていたコートは、天板が崩れ落ち、足を踏み入れる事さえできなくなっていた。

ここでチームは、即座に決断をする。「今の瞬間に自分たちが出来る事をやる——」



熊本ヴォルターズ本拠地「益城町総合体育館」震災直後の様子。崩落した天井板は数日後に撤去され、被災者が生活する避難所になった。

支援活動を最優先 チームは存続危機に

2015-2016シーズンは6試合を残していたものの、球団は全試合のキャンセルを発表し、この日からチームは全力で被災者支援を行う。キャプテンの小林慎太郎選手は、被災した実家に住むことができず、車中泊を続けながら、支援物資を集め、チームメイトと共に自主避難所を中心に、物資を届け続ける。

現ヘッドコーチの保田堯之氏(当時のアシスタントコーチ)は、避難所に泊

まり込みで支援活動を続けた。

大混乱の中1か月が過ぎ、少し落ち着きができた頃、チームに存続の危機、という新たな試練が訪れる。チームを支えていた多くの企業が被災し、試合も開催できなくなったことで、急激に球団の資金繰りが悪化したのだ。

本来なら、昨年の5月～9月は、日本のバスケットボール界に大きな変革をもたらす、Bリーグの開幕に合わせ、様々な準備を進めるべき時期だった。それが、地震で準備はおろか、チームの存続という危機を迎え

てしまう。

球団は、支援活動を行いながら、チームの存続をかけて奔走を続ける。いよいよ状況が苦しくなり、2016-2017シーズンの休部も視野に入れ始めた時、「こんな時だからこそ」と、スポンサー企業から、自身が被災した中でのスポンサー継続の連絡が届きはじめる。また、バスケットボール界、他のスポーツ界からも、ヴォルターズ再建の為に様々な支援活動が行われ、多くの義援金が寄せられた。そして、新リーグに参加できる道筋がようやく見え始める。

この時期、選手も自身の去就を決める必要があった。球団は1年間戦えるだけの十分な資金を集められていない中、選手にオファーを出すことができない。その様な状況でも、5名の選手が、熊本の為に出来る事があるならばと、プロ選手としてのキャリアに傷がつくかもしれない、先行きの見えないヴォルターズからのオファーを待ち続け、残留を決める。





資金、練習場所、 選手の人数、先行きの 見えない厳しい状況

資金面以外でも、チームは練習場所、試合会場の確保という、インフラの問題にも直面していた。試合会場、毎日の練習場所として使用していたホームアリーナの益城町総合体育館

は避難所となり、体育館としての使用再開の目途がまったく立っていない状況だった。Bリーグ初年度の試合会場として予定していた熊本県立総合体育館も、同じく避難所になって



おり、地震被害により改修工事を行わなければ、試合会場として使える状況にはなかった。熊本県内の他の体育施設も、どこも同じような状況だった。仮に、資金面での問題がクリアになったとしても、練習場所、試合開催地の確保すらできない、というプロチームにとっては非常に厳しい状況に立たされていた。

そんな中、蒲島郁夫熊本県知事から、「県として可能な限りバックアップする。熊本を元気づけてくれ!」とのエールが届き、非常にタイトなスケジュールではあったものの、熊本県立総

合体育館の補修工事を、Bリーグの開幕戦までに完了させる、という行政の後押しが入った。

この決定を受け、6月3日、熊本ヴォルターズは、正式にBリーグ2016-2017シーズンへの参加を発表するに至る。ただ、この段階では、選手は数名しか決まっておらず

(プロチームとしては最低でも11名は必要、7月1日チーム始動時点で5名の契約)、毎日の練習場所の確保もできていない。資金的にも、ギリギリ1年間戦えるかどうか、という不安だらけの中での船出となった。

その様な厳しい状況の中、球団は9月24日の開幕戦に向け、準備を開始する。選手たちも車で1時間、2時間かけながら、練習場所に向かい、チーム作りを進めていく。支援活動は、熊本県内の物流が戻るのに伴い、物資配送から、子ども達へのバスケットボールの寄贈と、その性質を変えながらも継続していた。

支援活動が続けながら 開幕戦への準備を開始

その様な厳しい状況の中、球団は

9月24日の開幕戦に向け、準備を開始する。選手たちも車で1時間、2時間かけながら、練習場所に向かい、チーム作りを進めていく。支援活動は、熊本県内の物流が戻るのに伴い、物資配送から、子ども達へのバスケットボールの寄贈と、その性質を変えながらも継続していた。

13勝と合計で25勝しかしていなかったチームが、今年はリーグの半分が終った時点で、過去の勝ち数と同じだけの勝ち星を挙げたのだ。

シーズン半ばから他地区との交流戦も始まり、若干星を落とすつつも、3月22日時点で35勝11敗、B2西地区の3位につけている。3位と少し後退した感があるものの、B2全体でも3位なのだから、まだまだ十分に自力でプレイオフに進出できる可能性を残している。

熊本のために 被災地のために戦う

チームGMの西井辰朗は、今のヴォルターズの強さについて、こう語っている。「選手たちが本当に頑張ってくれています。震災を経験して、い

んなことを感じていて、被災地で支援を続けてきた事で、『熊本のために』『被災地のために』という目的が一人ひとりの心の中にあります。それが良い方向に向かって、結果につながっていると感じていて、何より、会場の大声援が、一番の力になっています」

現在、ヴォルターズはB1昇格へ向けて、熊本県民の、被災地の想いと共に戦っている。

3月1日、B1ライセンス交付も受けることができた。後は成績次第だ。5月7日の最終戦を終えた時に、B1昇格へのチャンスを掴めるか、結果が分かる事だろう。

目標はB1に昇格 全国に想いを届けたい

最後に、球団代表の言葉を紹介

する。

「B1昇格を果たし、株主、スポンサー、ファンの皆様、チーム、フロント、関わる全ての方々そして熊本県民の皆様で喜びたい。後半戦に入り、少し負け込みましたが、震災を乗り越えたのだから、このピンチも乗り越えられると信じています。簡単ではない事は分かっていますが、困難は乗り越える事ができる、と皆が経験しています。我々球団フロントは選手たちを取り巻く環境をしっかり作っていく。その為にもまだまだ応援してくれるスポンサーを集める必要がありますし、観客動員数も増やしていかなければならない。私たちが頑張る事で、チームが強くなっていく。チームが120%の力で戦えるようになる事で、私たちも頑張れる。この頑張りが、私たちの理念である『子どもたち

に夢を』『熊本に元気を』『人と人の繋がりを』に繋がっていくんだという事は、震災を通して体感する事ができました。今は熊本を中心として活動していますが、B1に昇格できれば全国区になりますし、九州では唯一のB1に所属するチームになります。熊本から九州、そして日本全国に、私たちの想いが届けられるようにしたいです」

開幕1年目のBリーグ。プロ野球やJリーグのような、国民的スポーツとなるべく、各方面の関係者が注力し、注目を集めている。東京オリンピックを経て、5年後、10年後には大きく発展していく事であろう。そんな中、熊本ヴォルターズも、全国区のチームに成長する事を期待したい。





支援物資として届いた「米袋」でお礼のメッセージを作成し、他県で行われるアウェイゲームで、感謝の気持ちを伝えている。





「スポンサー・Vクラブ会員」募集

熊本ヴォルターズではご協賛いただけるスポンサー企業を随時募集しております。

ユニフォーム、冠試合、キッズサポート等において、企業・商品を幅広くPRできます。
市民クラブとして地域活動にも積極的に参加しておりますので、スポンサー企業様と共に、これらの活動に参加する事により、地域貢献を行う企業イメージの向上をお手伝いさせていただきます。また、トリコロールキャラバンにおいては、子供向けのスクールを開催し、スポーツ文化の振興や、地域活性化として、数多くの活動を実施しております。

〈協賛金〉

スポンサー 1,000,000円～ / 1 シーズン

Vクラブ(法人) 80,000円～ / 1 シーズン

Vクラブ(個人) 3,000円～ / 1 シーズン

冠試合・キッズサポート:1,000,000円 / 試合



スポンサー様に合せたご協賛プランもご提案できますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

連絡先／熊本バスケットボール株式会社法人営業部

担 当／北園

電 話／096 (284) 1555





KUMAMOTO-VOLTERS

